E2JS/E2J

本科１期４月度

解答

Ｚ会東大進学教室

高２選抜東大英語

高２東大英語

1章　文型 1

問題

【1】

A.

全訳

森林を地面にすえつけている根は，土壌を安定させ，風食，浸食及び洪水から地表を守り，給水をろ過し不純物を取り除く。従って，熱帯地方での農業の成功は，付近の自然林の保全にかかっていることが多い。

B.

解答

（1）ⓐ animals　ⓑ men

（2）「**全訳**」の下線部参照。

全訳

動物は，目の前で実際に行われるのを目の当たりにすることは他の動物から学習するかもしれないが，話されることを通して学習することはできない。一方，人間は言葉を習得した時，話されることを通して学習することができるようになり，それ故，各個人の情報は種族全体の所有物となることが可能になり，各世代が，次の世代にいかなる動物の種族であっても伝達することが不可能であるように思える数多くの技術を，次の世代に伝えることもできるのだ。なるほど動物も自分の子供をある程度までは実際に教育している。私は，父親と母親のかもめが，子供のかもめに水に潜る方法を教えているのを見たことがあるが，その時，子供のかもめは，人間の子供だったらちょうど示したような類のしりごみして臆した様子を示していた。しかし，動物がこのように教えることができるのは，非常に単純なことのみである。ところが，人間は，言語能力のおかげで，自分自身が知っていることはいかなることでも伝えることができるのだ。

【2】

解答

（1）① are　② of〔about〕

（2）自然が人間に調和するのではない，ということ。

（3）「**全訳**」の下線部ⓐ～ⓒ参照。

解説

（1）

① Among the delights of Japan are its gardens「日本に関する喜ばしいものの中に庭園がある」

○ Among the delights of Japan が文頭に出て SV が倒置された形。

= its gardens are among the delights of Japan

○ themselves：再帰代名詞の強調用法。they を強調。

② inform ～ of〔about〕…「～に…のことを知らせる」

（2）

◇ the other way（a）round〔about〕「あべこべに」

○直前の it is we who properly fit in it「それ〔自然〕に適切に調和するのは我々である」を受けている表現。その逆ではない，つまり「自然が我々に調和するのではない」ということ。

◇ it is we who properly fit in it

○強調構文。‘it is ～ who …’ で ‘ ～ ’ の部分を強調。

cf. we properly fit in it

○ properly「きちんと；厳密に；当然のことながら」

○ fit in ～「～にぴったり合う；～に適合する；～に調和する」

（3）

ⓐ◇ to conquer は something を修飾する形容詞用法の to 不定詞。

○ conquer［kɑ́ːŋkər］「～を征服する」*cf. n.* conquest

◇ instead「その代わりに；そうではなくて」

◇ an environment *of* which we also are a part

cf. we also are a part *of* an environment《前置詞＋関係代名詞》

ⓑ◇ another「もう一つの；別の」

◇ judge O（to be）C「OがCだと思う；判断する」

◇ the more important：「二者のうち一方がより～」の意味の場合，このように比較級に the がつく。

ⓒ◇ With the attitude now vanished「その考えかたが現在では消えてしまったので」

○ with O *done*「Oが…された状態で」《付帯状況》

○ vanish「消える」

○自動詞の過去分詞は完了の意味を表す

cf. the attitude which has now vanished

◇ we are left with ～「我々には～が残された」

cf. leave O with ～「Oに～を残す」

◇ those examples made「作られたそれらの例」《直訳》

○ made は examples を修飾する過去分詞

＝ those examples *which were* made

◇ the Japanese feeling for nature「日本人の自然に対する思いやり」

全訳

日本に関する喜ばしいもののうちの１つに庭園があげられる。それは庭園そのものが美しいからのみならず，自然に対するある考え方を我々に教えてくれるからでもある。丘がブルドーザーでならされてしまったり，木立ちが切り倒されるということはない。それどころか，丘の周りや木立の中に，自然に逆らうのではなく自然と協力して，人は庭園を造るであろう。ここかしこにある岩や植物や木は移し変えられるかもしれないが，そうする目的は既にそこ

にある自然の輪郭をはっきり見えるようにするためなのである。

ⓐ自然は征服すべきものではなくて，我々もまたその一部となっている環境なのである。つまり，自然に適当に調和するのは我々であり，その逆ではない。そして日本では，その理想的な考え方を今でも見ることができる。つまり，家は庭の一部であり，庭は家の一部であるという考え方である。

誰しもがこのような考え方を持っていた時代は，もちろん過ぎ去って久しい。ⓑもう一方の精神がより重要だと判断されてしまっている —— 他のどこの国ともまったく同じように，それは「破壊し，焼いてしまう」ことだらけの精神である。しかし，この変化の訪れは日本では遅かった。古い考え方が最近までまだ生きていたのである。私は，低く突き出した枝のある木の近くに，職人たちが塀を作っているのを見た時のことを覚えている。 枝が塀にぶつかるのを避けられないことが明らかになった時，職人たちは話し合い，その枝を救うために塀に穴を開けたのであった。

ⓒ今ではこのような考え方はなくなってしまったので，我々に残されているのは，日本人の自然への思いやりが存在していた時の例だけである。 そうした例は，古いものが少なくとも許容されている保守的な都市である，古都京都の庭園ではよく見られる。

注

ℓ. 2 ◇ Hills are not made to be bulldozed nor groves to be cut down「丘がブルドーザーでならされたり，木立ちが切り倒されたりということはない」
○ People do not make hills be bulldozed nor groves be cut down を受動態にした形。
○ make O *do*「Oを…させる」
○受動態では原形不定詞が to 不定詞に変わる。

ℓ. 3 ◇ around the hill or within the grove が主語（one）に先行した形。

ℓ. 4 ◇ working with nature, not against it「自然に逆らうのではなく；自然と協力して働きながら」
○付帯状況を表す分詞構文。 it は nature を指す。

ℓ. 5 ◇ the natural lines already there「すでにそこにある自然の輪郭」

ℓ. 8 ◇ the garden, (is) a part of the house と補って考える。

ℓ. 10 ◇ The days are now long gone, of course, when anyone held this attitude「誰しもがこのような考え方を持っていた時代は，もちろん過ぎ去って久しい」
○ when は the days を先行詞とする関係副詞。
○ long：ここでは副詞用法。「長い間；久しく」

ℓ. 11 ◇ it は another spirit を指す。
◇ all：ここでは「～に満ちた；～だけの；すっかり～」の意。

ℓ. 12 ◇ Yet this change came late in Japan「しかしこの変化は日本では遅れてきた」《直訳》
○ yet「けれども；しかしながら」
○ late：ここでは副詞用法。「遅れて；遅く」

ℓ. 13 ◇ remember …ing「…したことを覚えている」《過去》
cf. remember to *do*「…することを覚えておく」
◇ watch O *do*「Oが…するのを見る」

ℓ. 14 ◇ over-hanging (overhanging) は branch を修飾する現在分詞。「突き出している枝」
◇ When it became apparent that ～「～が明らかになった時」
○ it は that ～ を受ける形式主語。
○ apparent「①明白な　②外見上の」
○ apparently の場合，①の意味「明白に」はまれ
ℓ. 15 ◇ to save the branch「枝を救うために」《目的を表す副詞用法の不定詞》
ℓ. 17 ◇ They are often seen in …
○ they は those examples を指す。
◇ the early capital と a conservative city … は共に Kyoto の言い換え。
ℓ. 18 ◇ the old is, < 挿入 >, tolerated「古いものが許容されている」
○ the old「古いもの」the ＋ 形容詞で抽象的意味「～なもの；～のこと」を表す用法。
○ tolerate ～「～を許容する」

【3】

解答

（1） **c**　（2） **b**　（3） **a**　（4） **d**　（5） **d**

Script

CD 1

W：Excuse me, waiter.

M：Yes, what can I do for you?

W：It's the bill. What are these extra charges here?

M：Extra charges? Well, there's a two-dollar cover charge per person. It's written on the menu. See?

W：Yes, I see. So that accounts for this $4.00 here. Then what's this $3.50 here?

M：That's the bread charge.

W：The bread charge? But we didn't order any bread.

M：Well, you ate it.

W：Of course we did. When a restaurant serves bread without you ordering it, you assume it's free.

M：It's an Italian custom, ma'am. There is always a bread charge.

W：But this is New York, not Italy.

M：This is an authentic Italian restaurant, ma'am.

W：In New York. And what about this $8.00 for grilled vegetables? We didn't order that.

M：You didn't? Oh, terribly sorry. That must have been for the next table.

W：The next table? Why am I being charged for what they had?

M：Now don't get upset. Everyone makes mistakes. This is a very busy restaurant.

W：Well, it's not going to be busy for long if you don't treat your customers better. There's nothing that can ruin a meal more than surprises on the bill.

M：Now, now. We won't charge you for the grilled vegetables.

W：For the vegetables?

M：[Sighs] Or the bread. Satisfied?

W：I guess so. Do you take American Express?

M：Sorry, ma'am, only cash. [221 words]

全訳

女：すみません，ウェイターさん。
男：はい，いかがいたしましょうか。
女：お勘定のことです。これは何の追加料金ですか？
男：追加料金ですか？ええと，お一人につき2ドルのサービス料金がかかります。メニューに書いてございますが。よろしいですか？
女：はい，わかります。それはこの4ドルのことですね。じゃあ，ここにある3ドル50セントは何ですか。
男：それはパンの代金です。
女：パンの代金？でも，私たちはパンなんか注文してませんよ。
男：お召し上がりになりましたが。
女：もちろん食べました。注文しなくてもレストランでパンを出されれば，当然タダだと思いますよ。
男：イタリアの習慣なんです，お客さま。いつでもパンは有料です。
女：でも，ここはニューヨークで，イタリアではありませんよ。
男：ここは，本物のイタリアン・レストランです，お客さま。
女：ニューヨークの，でしょう。それから，このグリル野菜の8ドルっていうのはどうなんですか。注文していません。
男：ご注文になっていない？ああ，大変失礼しました。きっとお隣のテーブルのものだと思います。
女：隣のテーブルですって？どうして隣のテーブルの人が食べた分を請求されるんですか？

男：お怒りにならないでください。だれにでも間違いはあります。ここはとても繁盛しているレストランですから。
女：客への接し方を改善しなれば，繁盛も長くは続かないでしょう。勘定での不意打ちほど，料理を台なしにしてしまうものはありませんからね。
男：まあ，まあ。グリル野菜の分はご請求しませんから。
女：野菜の分，ですか？
男：（ため息をついて）それからパンの分も。それでよろしいですか？
女：そうですね。アメリカンエキスプレスは使えますか。
男：すみません，お客さま。現金のみなんです。

【4】

ポイント

５文型の基礎を再度確認してみよう。

SVOC において，名詞〔名詞句・名詞節〕は S，O，C になり，（叙述用法の）形容詞は補語（C）になる。前置詞句などの副詞句や副詞節などは S，O，C にならず M〔modifier：修飾語〕になる。さらに，語順が入れ替わっている場合にも注意すべきである。

解答・解説

a　SVOO「私は彼女に良いガイドブックを見つけた。」
○第４文型〔授与動詞〕：SVO_1O_2「S が O_1 に O_2 を V する」と訳す形が多い。

b　SVO「彼はドアノブを回した。」
○第３文型〔完全他動詞〕：SVO「S が O を V する」となる形が一般的だが，必ずしも「O を」とならない場合もあるので注意する。

c　SV（M）「地球は太陽の周りを回転している。」
○第１文型〔完全自動詞〕：SV「S が V する」であるが，単に SV だけの英文は少なく，場所や時間の副詞句（前置詞句を含む）を伴うことが多い。

d　SVC「私の髪が白くなった。」
○第２文型〔不完全自動詞〕：「S が C になる」「S は C である」などの意味になり，S ＝ C もしくは S is C. が成立する。

e　SVOC「その熱は芝生を茶色くした。」
○第５文型〔不完全他動詞〕：「O を C だと思う」「O を C にする」などの意味になり，O ＝ C もしくは O is C. が成立することが多い。

（1）　**e**

SVCO「彼はその職を辞するという決断を公表した。」

○ public は「公衆の；公開の」という意味の形容詞であり補語（C）になる。一般に ‘make O C’ などの第５文型において O が長い場合はしばしば後置されて ‘make C O’ の語順になる。本問でも，‘make O public’ で「O を公表する」という意味になるが，O（= his decision to quit his post）が後置されて ‘make public O’ となっている。

（2） **e**

SVOC「私の夫はプロポーズした時，私の心のベルを初めて鳴らしてくれた。」

○この make は「使役動詞」と呼ばれ，SVOC の C に動詞の原形が来て「O に～させる」となる。つまり，‘O ＝ my heart’s bell’, ‘C ＝ ring’ となって「私の心のベルを鳴らす」となる。ring は「鳴る，響く」という意味の自動詞。

（3） **b**

SVO（M）「彼女は婚約指輪を金庫の中に取っておいた。」

○ ‘keep O’ で「O を保つ，保管する」となっている。ring は「指輪」という意味の名詞。in the safe という前置詞句は副詞句であり文の要素（S, V, O, C）にならず, M〔modifier：修飾語〕である。

（4） **b**

OSV（OvSV ← v は助動詞を表す）「彼女は会議で一言もしゃべらなかった。」

○ She did not say a word at the meeting. の目的語が文頭に置かれた形。

○一般に SVO の O〔目的語〕を強調などの理由で文頭に置くと，OSV という形になるが，特に否定の目的語の場合はその後が倒置になることが多い。

Ex. This sort of thing I cannot say.（こんなこと私には言えやしません。）

Not a single mistake did they find in my report.

（私のレポートに彼らは１つの間違いも見つけませんでした。）

（5） **d**

SVC「彼の理論は大変役立つことがわかった。」

○ ‘of ＋ 抽象名詞 ＝ 形容詞 ’ という事項は有名であろう。

Ex. of importance ＝ important

○本文でも ‘of great use ＝ very useful’ となり，補語（C）になっている。prove は他動詞だと SVO となり「O を証明する」という意味になるが，自動詞で SVC となると「S は C だとわかる」という意味で使われる。

（6） **c**

MVS「丘の片側に深い森が茂っていた。」

○ On one side of the hill が場所を表す副詞句〔前置詞句〕となり前置され，MVS の形になっている。主語はあくまでも名詞〔名詞句・名詞節〕に限られ，前置詞が先行する名詞〔前置詞句〕と区別すべきである。grow は自動詞で「育つ」という意味。

（7） **d**

CVS「けれどもさらに大切なのは，あなたの考えの内容です。」

○ important は形容詞であるから補語であり，C になる。一般に補語が前置される場合には，CVS となることが多い。

（8） **b**

OSV「インターネットが私たちをどこに連れていくのか，わかりません。」

$\underbrace{\text{Where the Internet will take us}}_{\text{O}}$, $\underbrace{\text{we}}_{\text{S}}$ $\underbrace{\text{cannot tell}}_{\text{V}}$.

○ Where S’V’O’ が名詞節を作り，tell の目的語となる。全体としては We cannot tell

where the Internet will take us. の目的語が前置され OSV となった形である。

（9） **b**

SVMO「私たちは馴染み深いものを自然だとみなすことがよくある。」

○ regard A as B の A の部分が長いために後置され，regard as B A となっている。
A = something with which we are familiar ／ B = natural

○ with which はいわゆる‘前置詞＋関係代名詞’であり，something という先行詞を修飾する形容詞節を導いている。

（10） **e**

SVOC「私は黄色いくちばしの黒い鳥が巣から飛び立つのを見た。」

○ see, hear, feel などは一般に知覚動詞と呼ばれ，SVOC の C の部分に原型不定詞や分詞を取る。
Ex. I *heard* someone call my name.（私は誰かが自分の名前を呼ぶのを聞いた。）

○本問でも，‘O = the black birds with yellow beaks’, ‘C = flying out of their nest’となっている。beak「くちばし」nest「巣」

【5】

ポイント

第２文型 SVC は，一般に S = C（S is C）が成立すると言われる。

また，第２文型を取る動詞は，be 動詞を始め，限られており，become ／ lie ／ sit ／ keep ／ remain ／ stay ／ appear ／ look ／ seem ／ prove ／ get ／ turn ／ go ／ feel ／ smell ／ taste などがある。ここでは，様々な第２文型の形を見ていこう。

解答

g，**h**，**k**

解説

a「可哀想にその犬は大きな木の下で冷たく横たわっていました。」

○ lie は「横たわる」という意味の自動詞。lie - lay - lain - lying と活用する。また dead は「死んだ状態の」という意味の形容詞。The dog（S）lay（V）dead（C）となる。ちなみに他動詞「～を横たえる」の lay は lay - laid - laid - laying となる。
Ex. She *laid* her bag on the table.〔SVO〕（彼女はバッグを机の上に置いた。）

b「このチケットはまだ有効です。」

○ hold good「有効である」

○ S is C（The ticket is good）が成立していることに注意。

c「それよりも重要なのは彼が私たちにしたこの質問です。」

○補語が前置されて CVS の形となっている。

$\underbrace{\text{This question which he asked us}}_{S}$ $\underbrace{\text{was}}_{V}$ $\underbrace{\text{more important than that}}_{C}$.

と書き換えてみるとわかりやすい。このように SVC の C が前置されると S と V が倒置になることが多い（つまり CVS となりやすい）。

d「経済危機のためその会社は倒産しました。」

○ the company ＝ bankrupt となっている。go bankrupt「破産する」は覚えておこう。

e「彼の言い訳はだいぶむなしく聞こえる。」

○ hollow は「空虚な・うわべだけの」という意味の形容詞。his excuse（S）＝ very hollow（C）が成立している。S sounds C. で「S は C のように聞こえる」という意味になる。

f「彼らは眠っている赤ん坊を起こさないよう黙っていた。」

○ because of A は「A のために」という理由を表す前置詞句。they（S）＝ quiet（C）が成立している。keep C で「C の状態のままである（C の状態を保つ）」となる。

g「彼の新著は大変面白く読めます。」〔SV（M）〕

○ read には他動詞の「読む」以外にも自動詞として「読める」という意味があることに注意。interestingly は副詞であり SVC にはならない。

Ex. This sentence *reads* two ways.（この文は２通りに読める。）

h「このバラの匂いを嗅いでください。」

○ smell という動詞で始まる命令文である。命令文の主語は You であるから，you（S）≠ this rose（O）となっている。この smell は「（匂い）を嗅ぐ」という他動詞である。なお，smell には第２文型の使い方もあることには注意。

Ex. This rose *smells* sweet.〔SVC〕（このバラは甘い匂いがする。）

i「スーザンはピエロのように陽気にふるまった。」

○ make には補語を伴って「～になる；～のように振舞う」という意味の自動詞用法がある。この場合は SVC となることに注意。ただし補語は名詞および merry や bold など一部の形容詞に限られ，極めて成句的な表現である。

Ex. She will *make* a good wife.〔SVC〕（彼女は良い妻になるだろう。）

j「彼の父は突然病気になった。」

○ his father（S）＝ ill（C）となる。fall ill「病気になる」

k「このドレス私に似合う？」

○ this dress（S）≠ me（O）であることに注意。become O で「O に似合う ＝ suit O 」という意味になる。

【6】

ポイント

第４文型を第３文型に変える場合，たとえば He gave me the book. → He gave the book to me. と前置詞 to を用いたり，He bought me the book. → He gave the book for me. と前置詞 for を用いたりするものがある。どんな動詞にどんな前置詞が用いられるのかを確認しよう。

解答・解説

（１） to「多くはあなたのおかげです。」

○ owe A B ＝ owe B to A「B を A のおかげとする」

（２） for「彼は彼女にダイヤの指輪を買ってあげた。」

○ buy，make，get などは第３文型にすると ‘to’ ではなく ‘for’ を用いる。

（３） to「昨日私は子供たちに面白い話をしてあげた。」

（４） of「お願いがあるのですが。」

○ ask の場合には，ask A B ＝ ask B of A となることは覚えておきたい事項の１つ。

（５） for「彼女は息子に模型の飛行機を作ってあげた。」

（６） to「彼は彼女に長い手紙を書いた。」

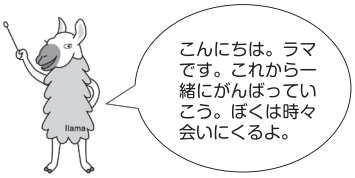
（７） for「あなたにカバンを注文しましょうか。」

（８） on「彼らは私にいたずらをした。」

○ play A a trick ＝ play a trick on A「A にいたずらをする」
on を用いるのはこの形のみと言われている。

今日の一言

What the heart thinks, the mouth speaks.
「思いは口に出るものだ。」
What the heart thinks が目的語で前置され，
OSV の形になっている。



考えていることをつい口に滑らせてしまうことは誰だってあるだろう。これを英語で Freudian slip（フロイト的失言）と言う．Freud とは他ならぬ，精神分析で有名な Sigmund Freud のことである。

添削課題

全訳

10代の若者たち自身は時々人に頼りたい気持ちになるのに，それを両親にも自分にも認めることはもちろん決してない。ただ，彼らはそういう気持ちを間接的な形で示すものである。私はある16歳の少年を思い出すが，この少年は自分のことは何でも自分でできる年頃だと絶えず断言しているくせに，昼食に家に帰った時，母親が彼のためにサンドイッチや牛乳やデザートを食卓に並べておくのを時折忘れると，腹を立てたり気分を悪くしたりするのだった。

解説

ℓ.3 ◇ a sixteen-year-old boy は２つの who- 節によって修飾されている。
◇ constantly「常に」
◇ declare that …「…と断言する；言明する」
◇ he was old enough …… completely が間接話法の部分。
◇ old enough to *do*「…できるくらい十分な年齢だ」
○ 形容詞〔副詞〕enough to *do*「…するくらい十分に～」

ℓ.4 ◇ forget to *do*「…するのを忘れる」 *cf.* forget …ing「…したのを忘れる」

ℓ.5 ◇ have *his sandwich, milk and dessert all* laid out on the table「サンドイッチとミルクとデザートをすべてテーブルの上に並べておく」
○ have O *done*「①Oを…させる《使役》 ②Oを…される《被害》 ③Oを…してしまう《完了》」
○ his sandwich, milk and dessert と all は同格的に用いられている。
○ lay O out「Oを広げる；O（食事）を並べる；Oの設計をする」